

ヘッドホン委員会活動報告

株式会社エミライ 取締役

島 幸太郎

1. はじめに

昨年より日本オーディオ協会（以下、「当協会」）内にヘッドホン委員会（以下、「当委員会」）が設立される運びとなり、僭越ながらわたくしが委員長を拝命いたしました。この度活動報告の機会を賜りましたので、当委員会設立の経緯を踏まえつつ、活動目標やこれまでの活動結果などを、以下にご報告いたします。

2. 当委員会設立の経緯

昨今のハイレゾリソリューションオーディオ普及に伴う当協会のいわゆるハイレゾロゴにつきましては、トランスデューサー系製品としてのヘッドホン・イヤホンについても適用対象となっており、具体的な運用規定や測定方法、評価方法についても一昨年より当協会内での議論が積み重ねられてきました。

ハイレゾロゴの適用対象品目のなかでも、特にトランスデューサー系製品は信号をデジタルからアナログに変換した後の特性に関する要件が定められており、その要件として 40kHz 以上の高域を再生周波数帯域に含むことのみが公表されております。この要件の根拠についても議論のあるところですが、アナログ変換後の特性を論じることから測定方法、評価方法などの多様性という点にも特徴があり、他の製品と比べて、消費者のご理解を得るために特段丁寧な説明が求められております。

また、昨今の音響関連機器の市場規模の統計などから明らかなように、スマートフォン・タブレットに代表される携帯端末市場の活況により、音響機器全体の台数および出荷価格に占めるヘッドホン・イヤホン関連製品の構成比率が増加傾向にあります。こうした状況の変化により、新規事業として音響機器の製造販売に取り組み、新規に当協会に加盟された企業数も近年大幅に増加しており、これまで以上に、会員企業間の意見交換やハイレゾ対応に関する情報の共有を進める必要性が高まっておりました。

そこで、当協会として、(1) ヘッドホン・イヤホン製品に関するハイレゾ関連を含んだ消費者への情報提供を行い、(2) ヘッドホン・イヤホン製品についての当協会加盟社間での意見交換および情報共有を促進する、という観点から当委員会が設立されました。当委員会設立にあたっては副委員長としてフォスター電機／フォステクスカンパニー 山口様にご就任いただき、継続的かつ多大なるご支援をいただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

3. ハイレゾ対応に関する情報共有と当委員会の目標設定

当委員会が設立直後に取り組んだテーマが、ヘッドホン・イヤホン製品のハイレゾ対応に関する情報共有です。当委員会は他の委員会と異なり、長年に渡り映像・音響機器の製造販売を行う企業からだけでなく、近年新規事業として取り組む企業からも委員が出席している点に特徴があります。また、他の委員会では技術的なキャリア/バックグラウンドをお持ちの方が多い一方で、

当委員会では販売の現場に近い委員が多い点も特徴です。そのため、他の委員会では暗黙知として共有されているであろう事柄についても、改めて確認する必要がありました。

そこで、当委員会に出席する委員のハイレゾ対応機器に関する事実認識の共有や、現在の課題を共有することから始めました。特に直近の課題となるハイレゾロゴ付与に必要な要件に関する質疑応答と認識合わせに重点を置くものとなりました。

4. 当協会 Web サイトでのヘッドホン・イヤホン特設ページの検討

次に当委員会が取り組んだのが、当協会 Web サイトでのヘッドホン・イヤホン特設ページ（以下、「特設ページ」）の検討です。当委員会では、委員会初期にて交わされた意見交換の場を踏まえ、一元化した情報を公開することが必要という判断をいたしました。加えて、当委員会においては、参加いただいている会員企業が比較的多いことや、ハイレゾロゴ付製品に関する問い合わせへの速やかな対応の一助となるよう、可能な限り早期の特設ページ公開を目標として委員会活動を行うことといたしました。

また、委員会中でヘッドホン・イヤホンに関するハイレゾロゴ規定の解説を当協会として発表する必要があるのではないかといったご意見や、また当協会加盟社がハイレゾロゴ規定に関連してそれぞれにニュアンスの異なる情報を発信することによって消費者の混乱を招く状況への懸念するご意見をいただいたことから、特設ページ作成にあたっては、各社がカタログ等で当該ページを一定の様式に従い引用、紹介することを前提とした作り方を行いました。

5. ヘッドホン・イヤホン特設ページについて

ハイレゾロゴ付与の基準に関連して、特にトランスデューサー系製品については再生周波数帯域に関する基準となる数値が顕著に採り上げられています。こうした数値そのもの以上に、特にヘッドホン・イヤホン製品についてハイレゾロゴ規定を付与する意義は、共通の測定方法、判断方法および基準を踏まえた製品づくりがなされていることを示すという点で意義深いものです。

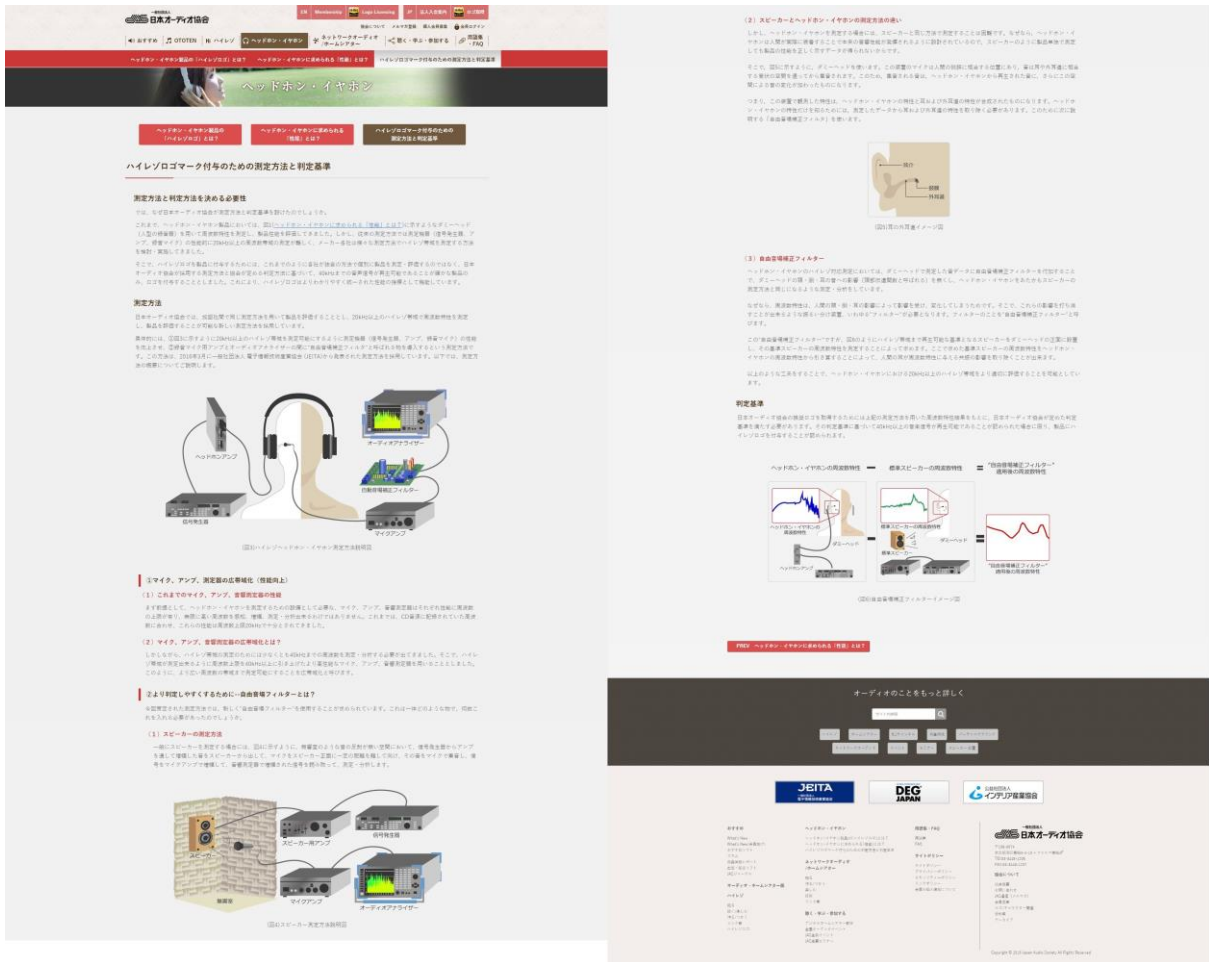
そこで、特設ページは『ヘッドホン・イヤホン製品の「ハイレゾロゴ」とは?』、『ヘッドホン・イヤホンに求められる「性能」とは?』、『ハイレゾロゴマーク付与のための測定方法と判定基準』、という3部構成とし、ハイレゾロゴ付与の意図、従来から取り組まれてきたヘッドホン・イヤホン製品の性能向上への取り組み、そしてハイレゾロゴ付与が意味する事柄について解説を加えることとしました。

当該ページの作成にあたっては、各委員の皆様から貴重なご意見をいただきましたが、特に原稿作成においてJVC ケンウッド 北川様、パナソニック 鈴木様、フォスター電機 渡邊様にご尽力いただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

また、当該ページのコンテンツとして、ハイレゾロゴ規定に関連するよくある質問と回答、またハイレゾロゴが付与されたヘッドホン・イヤホン製品一覧の掲載等を将来的な目標として検討しています。

ヘッドホン・イヤホンのページはこちら

<https://www.jas-audio.or.jp/headphone-earphone>



開設ページの一例

6. 音展その他イベントでの活動

Web ページは随時更新することが本来的には重要ですが、各委員のご助力により、当該ページは今年5月に開催されました音展の前までに公開することが可能な見込みが立ちました。そこで、当該ページの告知活動を並行して実施することとしました。最初の取り組みとして、当委員会では事務局と協力し、ハイレゾロゴおよび当該ページのQRコードを印刷した配布用シールを作成し、音展にて配布いたしました。また、7月に開催されましたヘッドホン・イヤホン関連での大きな業界イベントにおいても、同様の配布を実施いたしました。今後も主要な業界イベント等で継続してシールの配布を実施し、認知度の向上に努める予定です。



7. 各種勉強会の実施

当委員会では、ハイレゾ対応以外のヘッドホン・イヤホン製品関連技術についての勉強会も適時行っています。ヘッドホン・イヤホン製品は、特にスマートフォン系チップセットの機能強化に伴って新たな技術に対応していく必要があり、従来のトランスデューサー系製品と比べてキャッチアップのスピードが求められております。当委員会では、こうした新たな技術についての勉強会等を通じて、会員企業の新製品開発の参考となる活動も行っていく予定です。

8. おわりに

当委員会は新設された委員会となりますので、今後の活動についても、各委員から提案いただきつつ検討してまいります。当協会会員企業、特に近時会員となった会員からの積極的な参加も歓迎いたします。以上で当委員会の活動報告とします。

■執筆者プロフィール

島 幸太郎

株式会社エミライ取締役。OPPO Digital Japan 株式会社マーケティング・ディレクター。コンシューマー向け音響機器、特に PC オーディオ、ネットワークオーディオ、デジタルオーディオ分野が趣味であり得意分野。各種媒体での PC オーディオ関連、ハイレゾ関連企画の監修や原稿執筆も行う。『新版 PC オーディオガイドブック』（インプレスジャパン刊）著者。